

おもいやりあふれるまち阪南まち・ひと・しごと創生委員会 会議録

日時	令和3年9月10日(金) 10時00分～11時50分
場所	阪南市防災コミュニティセンター まもる館 1階 研修室
出席者 (敬称略)	<p>委員 久(委員長・近畿大学)、下村(副委員長・大阪府立大学)、奥野(商工会)、原田(連合大阪)、佐田(大阪府)、今井(市民公募)、橋本(市民公募)、浄謙(市自治会連合会)、阪口(大阪観光局)、大塚(南海電鉄)、和田(J:COM)、高垣(関西エポート)、濱口(池田泉州)</p> <p>阪南市 市長 水野、未来創生部長 松下 政策共創室:藤原、御坊谷、太田、石橋 シティプロモーション推進課:前田、楠本 まちの活力創造課:高倉、中、楠本</p>
傍聴	1名
議事項目	<p>① 開会 ② あいさつ ③ 委員の紹介 ④ 委員長、副委員長の選出 ⑤ 議事 (1) 第1期総合戦略の進捗状況について〔資料1、資料2〕 (2) 地方創生の主な取組について ①企業版ふるさと納税について〔資料3、参考資料1〕 ②市役所地下の食堂跡地を活用した「(仮称)阪南テレワークステーション」の整備について〔資料4〕 ③新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について 令和2年度分〔資料5-1、資料5-2〕、令和3年度分〔資料6〕 (3) 意見交換 (4) その他 ⑥ 閉会</p>
会議資料	<p>① 次第 ② 名簿 ③ 資料1 令和2年度 阪南市総合戦略内部評価報告書(令和2年度分) ④ 資料2 地方創生推進交付金事業に係る効果検証(創生委員会評価シート) ⑤ 資料3 阪南市における企業版ふるさと納税(地方創生応援税制)について ⑥ 資料4 市役所地下の食堂跡地を活用した「(仮称)阪南テレワークステーション」の整備について ⑦ 資料5-1 令和2年度 新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金の活用事業 ⑧ 資料5-2 令和2年度 阪南市新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を活用した事業の実施状況及び効果検証について ⑨ 資料6 令和3年度 新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を活用した事業 ⑩ 参考資料1 地域再生計画 ⑪ 参考資料2 第2期阪南市総合戦略</p>
議事内容	
1. 開会	
事務局	<p>・出席は、15名中13名。 ・「おもいやりあふれるまち 阪南まちひとしごと創生委員会」条例第6条第2項の規定により、本日の会議が成立。 ・傍聴者は1名。 ・会議次第に基づき、進めていく。</p>
2. 市長あいさつ	
市長	<p>・新型コロナウイルス感染拡大の中、委員の皆様には、阪南市にご参集および委嘱を快諾いただいたことに感謝している。 ・阪南市は、都市部から一番遠いまちである。大阪府下では発症率が最も低い。ワクチン接種においても、65歳以上の方は80%を超え、現在も増えている状況。計画通り進んでいる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この創生委員会において、3月に第2期阪南市総合戦略のご審議をいただいた。現在は、第2期総合戦略を運用している。</li> <li>・本日は、第1期総合戦略についての令和2年度の評価をしていただく。総合戦略の内部評価について、委員の皆様にご審議をしていただきたい。</li> <li>・本年で30周年を迎え、このまちをどうしていくのかを考える節目となる。市制施行した当時は、ベッドタウンとして人がたくさん集まり、市になってからも人口が増えてきた。2000年をピークに人口が減少して、少子高齢化が広がっている。歴史、文化、自然豊かなこのまちは、先人たち・今の市民の人たちに守られてきた。それをもっと、まちづくりや市政参加のビッグライドと豊かな環境を守ることを重視し、SDGsをしっかりと統合し、企業や市民の皆様、活動者と一緒にこのまちをリノベーションしていきたいと考えている。その中心になっていくのは、人口減少の中で大人になっていく子供たちだと見据えている。子供たちの育つ権利、また、育てる権利をしっかりと条例化をしていきたい。そのためにも、第2期総合戦略でご審議をしていただいたように、若い世代の皆様、阪南市に来てもらう関係人口や交流人口を増やしていく取り組みを進めていきたいと考えている。</li> <li>・最後に、2月に発出した財政非常事態宣言について体制を整えた。現状の行財政構造改革プランを遂行すると、令和18年には、83億円に上る累積の赤字が生じるところであった。将来、44,000人になる人口も見据えながら、最適な自治体の規模、サービスを落とさず、どのように運営をしていくのか。令和18年度までに100億円の効果額を出すため、行財政構造改革プランの改訂版を策定した。来年度以降、赤字ならないよう、しっかりと運営をしていきたい。</li> <li>・自分たちのまちは自分たちで作るために、財政を安定させることは非常に大事なことでと改めて実感している。総合戦略に基づいて、このまちどのようにしていくのかという様々なご意見をいただきたい。</li> </ul>
3. 委員の紹介	
各委員および事務局	各自紹介。(詳細は割愛)
4. 委員長・副委員長の選出について	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長の選出は、本委員会条例第5条第2項により、委員長は委員の推薦によって定める。</li> <li>・事務局の一任でよい。(奥野委員より)</li> <li>・事務局一任でよいか。(一同賛成)</li> <li>・久委員に引き続きお願いしたい。(事務局)</li> <li>・久委員を委員長に任命。</li> <li>・副委員長の選出については、本委員会設置要綱第4条第4項により、副委員長は委員の中から委員長が任命する。</li> <li>・総合計画審議会でも副委員長をしている下村委員にお願いしたい。(久委員長)</li> <li>・下村委員を副委員長に任命。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生の評価や計画づくりを担当するのがこの委員会である。</li> <li>・阪南市だけでなく、全国の市町村が一斉に頑張っている中で、その中でいかに阪南市の魅力を高めていけるかが重要。</li> <li>・先ほどの市長のお話の中でコロナ感染者に関して、大阪府内では低いと伺った。それも一つコロナ禍においては、PR材料になるのではないかとと思う。</li> <li>・私事ではあるが、娘が一昨年の8月にニュージーランドへ渡った。その半年後に、コロナ社会が蔓延をした。ご承知のように、ニュージーランドでは、ほとんど感染を出していない。娘の状況が心配になり連絡した。渡って半年の日本人へ8割の所得を補償するため、ロックダウンに協力するよう要請があった。その即断が、国籍にかかわらずできるところが、ニュージーランドの現状を作っているのではないかとと思う。こういう政策がうまく動くかどうかということも都市の魅力づくりになる。自然環境や地理的条件は、変えることができないが、産業の活動や市民活動の政策はすぐに取り組むことができる。魅力づくりに役に立つのではないかと考えたため、情報提供を兼ねてお話をした。</li> <li>・私は市長が、市の職員時代から一緒にいろんなことを取り組ませていただいた。市長が福祉担当であった時、「阪南モデル」として全国でも先進的な地域福祉の取り組みが行われていた。当時、先進的な政策ができると全国から阪南市に視察にくるということが現場で起こっていた。そのような魅力的な取り組みなどを皆様の知恵を借りながら、さらに強みにできればと思っている。ご意見等いただきたい。</li> </ul>

## ◎資料の確認

委員長	・それでは、事務局からご説明をいただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の確認をする。</li> <li>・配席表</li> <li>・次第</li> <li>・名簿</li> <li>・資料1、阪南市総合戦略内部評価報告書(令和2年度分)</li> <li>・資料2、地方創生推進交付金事業の係る効果検証(創生委員評価シート)</li> <li>・資料3、阪南市における企業版ふるさと納税(地方創生応援税制)について</li> <li>・資料4、市役所地下の食堂跡地を活用した「(仮称)阪南テレワークステーション」の整備について</li> <li>・資料5-1、令和2年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用事業</li> <li>・資料5-2、令和2年度阪南市新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業の実施状況及び効果検証について</li> <li>・資料6、令和3年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業一覧</li> <li>・参考資料1、地域再生計画</li> <li>・第2期阪南市総合戦略</li> <li>・次に、議事を説明する前に、委員会の情報公開について説明する。会議の公開は、阪南市自治基本条例等に基づいて、委員会は原則公開となっている。会議の会議録はウェブサイトに公開を行う予定である。</li> <li>・以後の進行については、委員長にお願いする。</li> </ul>
委員長	・本日の委員会の役割は2つある。これまでの取り組みの評価をすることと、今後の取り組みに対して意見を出すことである。次第の案件1、第1期総合戦略の進捗状況について、これまでの取組を評価させていただきたい。まず、事務局から説明いただきたい。

## 5. 議事

## (1) 第1期総合戦略の進捗状況について〔資料1、資料2〕

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合戦略に掲げるKPIの進捗状況についてご説明する。</li> <li>・急速な少子高齢化の進展に、的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるため、平成27年に、阪南市の第1期の総合戦略を策定し、地方創生に向けた様々な取り組みを進めている。</li> <li>・この総合戦略に掲げる指標いわゆるKPIを毎年進捗把握しまして、今回、令和2年度の状況について報告をさせていただく。</li> <li>・なお皆様にご評価いただく重点事業は、のちほど担当課から説明する。</li> <li>・時間の関係上、資料を抜粋して紹介する。</li> <li>・資料1の7ページ。安全安心なまちづくりについては、コロナの影響により、防災講座の参加者や市の防災対策の拠点である防災コミュニティセンターの利用者が少なくなっている。一方、防災コミュニティセンターにある防災情報システムの満足度、街頭犯罪発生件数が目標値を達成できている。</li> <li>・11ページ。スマートウェルネシティの推進については、各種健康の施策に取り組んでいる。</li> <li>・13ページ。安心して結婚出産、子育てができる環境づくり。子育てができる環境づくりについては、現在市内に22ヶ所、おむつ替えや授乳ができる赤ちゃん駅の整備をし、駅の利用の満足度は年々増加してきている。</li> <li>・16ページ。自然文化、歴史、産業等の強みを生かしたにぎわいの場の創出については、各種イベントや平日・休日の滞在人口を数値として上げている。コロナの影響を受け、学習とイベントが実施できなかったため、実績値が低くなっている。</li> <li>・18ページ。市の認知度の向上やイメージアップによる移住定住への促進については、人口の社会増減数を掲げ、目標値は0としている。実績は、転入と転出の比較をすると転出の方が多く、転入と転出を差し引くとマイナス419人。</li> <li>・この他の事業としては、海洋教育など、他市にはない特殊な体験学習等の実施やコロナ禍でもイベントを実施し、本市の魅力の創出に向けて取り組んでいる。</li> <li>・事業の効果としては、数値としては見えにくいものや達成できてない事業もあるが、全体としては、着実に地方創生に繋がっている。</li> <li>・KPIの達成状況については、5年前に策定をしたものであるため、事業が廃止されたものや終了したもの、またその実績を現在把握できない指標を除くと、昨年度の達成率は、概ね3割ぐらいになっている。</li> <li>・効果が出ていない要因はコロナの影響により事業の中止や事業縮小をしたこと、またコロナ対策に重点を置いたことも要因の一つであると考えている。</li> </ul>
-----	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施できていない事業等がいくつもあり、財政的な要因もあるため、事業の継続性については今後の課題である。</li> <li>・令和3年3月に策定の第2期総合戦略については、限られた財源や時間の中で地方創生により高い効果を発揮できる施策を選択して集中して実施をしていくために、施策の絞り込みを目的とし、重点施策を設けている。</li> <li>・また第1期総合戦略にはなかった第2期総合戦略ではターゲットを設けて、本市の25歳から44歳の女性の就業率が非常に高いということもあり、特に子育て世代、特に30代の働く女性をターゲットとし、関係人口の創出や拡大、またスマートシティの推進や、里海里山づくりの推進、移住定住の促進など、地方創生に関する取り組みを、加速させながら、現在も新しい施策にも取り組んでいる。</li> <li>・21ページから皆様に評価いただく事業になる。21ページの重点事業の内部評価については、まちの活力創造課から説明をさせていただきます。</li> </ul>
<p>まちの活力創造課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KIX泉州ツーリズムビューロー事業についてご説明。</li> <li>・この事業は、堺市以南13市町(9市4町)と、民間企業様、官民が一体となって、観光地域づくりの舵取り役として、一般社団法人KIX泉州ツーリズムビューローを設立。</li> <li>・客観的な根拠という戦略のもと、多様な関係者と協働して、地域資源の 프로모ーションや一元的な情報発信、体験型観光の提供、マーケティング機能の強化等の事業を展開。それによって、地域内へ継続的安定的に、今後、泉州地域の文化の創造、人材の育成、地域経済の活性化に寄与することを目的としている。</li> <li>・令和2年度における実施事業については、プロモーション事業、情報発信事業、環境整備事業及び、商品企画開発事業の四つの柱に基づいて実施した。</li> <li>①プロモーション事業では、令和元年度において好評があったグルメサミットおよびグルメナイトというイベント開催を予定していたが、新型コロナ拡大の影響のため中止した。</li> <li>・その一方で、アフターコロナを見据えた取り組みとしまして、外国人旅行者向けのツアーパンフレットの作成や、日本航空地域活性化新ジャパンプロジェクトの取り組みとして開催した日本博にて出店を行いまして泉州地域の魅力を発信したほか、泉州食及び検討作業を体感できるオンラインツアーを実施することにより、コロナ禍における新しい生活様式に対応した取り組みを実施した。</li> <li>②情報発信事業では、こちらも令和元年等まで継続しておりました、関西国際空港エアプロダクト2階にて特産品等の販売については、コロナ感染拡大の影響により中止した。</li> <li>・一方でアフターコロナにおける情報総合発信事業としまして外国人向けに周遊サイクルの紹介を行った。</li> <li>・泉州文化や遺産など八つのテーマに沿ったホームページの作成、英語版でのフェイスブックを開設するなど、外国人向けのコンテンツを拡充させ、10月には、JALの機内誌において、8ページに渡るSENSHU特集を掲載された。</li> <li>・泉州観光地域づくり連携協議会を設立し、3月にワークショップを開催した。</li> <li>③受入環境整備事業では、和歌山市との連携事業である「泉州・和歌山 CycleRide 2021」として、ICTを活用したスタンプラリーを予定していたが、コロナの影響により中止。アフターコロナを見据えた泉州地域を周遊できるサイクルルートの設定や、自転車と自然、農業、漁業、伝統文化を活用した着地型の体験旅行商品の造成を行った。</li> <li>④商品企画開発事業では、泉州の食材の水ナスを用いて、体験型商品開発としまして、調理試食体験を9月に3回、実施した。</li> <li>・これらの事業実施の結果、令和3年3月31日付で、観光庁より地域連携DMO議事法として正式に認定された。</li> <li>・KPIについては、泉州地域における観光振興、観光産業、地域経済の発展に寄与することを目的としていることから、本市における地方創生推進交付金事業の実施に伴う効果策定としては、本市内で開催された各種イベントにおける総参加者数をKPIとして設定している。</li> <li>・本ツーリズムビューローでの取り組みでは、新型コロナの影響により事業中止が多く見られたが、アフターコロナを見据えた取り組みへシフトし、一定の成果を確認することができた。</li> <li>・ただし、本市の海水浴場や潮干狩り、やぐらパレードのイベント等の実施に伴う来場者数をKPI設定している本市における効果測定では、新型コロナの影響が直接的に反映され、目標値との差に大きなが生じている。</li> <li>・なお、今回実績に上げている数字については、コロナ禍においても感染症対策を行いながら実施し、観光協会等イベント参加者数を計上している。</li> <li>今年度は海水浴ややぐらパレードのような大規模なイベントではなく、コロナ禍においても小規模なイ</li> </ul>

	<p>イベント等を実施することで一定程度の効果を生み出すことができた。その一方で、アターコトを見据えた観光施策のあり方を検討していく必要があることから、今回の評価は、C:地方創生に効果があった。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料2のA3のとおり、委員会で評価をする必要がある。</li> <li>KIXツーリズムビューローについて、有効であったか、有効でなかったか、意見交換いただきたい。</li> <li>まず、私から質問させていただく。泉州地域の市町で連携して取り組んでいるが、阪南市と地域全体の関係性について、どのように考えているのか。また、連携をしたことで、市にとって、良かったことがあれば伺いたい。</li> </ul>
まちの活力創造課	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携している市町の関係性については、泉州市町でDMOに参加している各市町の担当者会議で、今年度および次年度にかかる事業の決定を行い、課長級会議で事業を決定する。最終的に部長会議で事業方向性を決定し、事業の方向性が決定する。事業の方向性を特定の市町に集中することはなく、各市町が平等に負担金を支払い、同じような立場になって、DMOを運営している関係性となっている。</li> <li>KPIの設定に関しては、阪南市単独での実施事業にかかる誘客数を設定している。</li> <li>資料のとおり、令和2年度の実施事業のKPI数値は、10万に対して3,821人であった。</li> <li>コロナの影響により、かなり少ない数字であるが、令和元年度の実施事業の誘客人数については7万5,000人である。報告数値としては、海水浴や、うまいもん市などの、商工会が主催の産業フェアに参画し、阪南市の物産展を一部開催することによって、2万4,000人の集客を上げた。DMOの本来の趣旨としては、9市4町で、全体的に泉州一体を盛り上げていくことをKPI設定するのが本来わかりやすいが、KPIの数値を図るための数値が統計データ上ないため、このようなKPI設定をした。</li> <li>単独実施の海水浴、うまいもん市、産業フェアなどの令和元年度の事業については、阪南市の地場産業と観光のPRに寄与できた。令和2年については、アターコトを見据えた対策をメインに事業を実施しており、KPIの中では3,800と数字を上げている。単独で実施している産業フェアの数値が3,000となっているため、コロナ禍にあっても一定の効果があったものである。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>私が期待していた答えでなかった。補足説明に聞こえた。</li> <li>人の流れとして、関空から泉佐野を越えて北の方に上がっている現状である。南の方へどうやってお客様を引っ張ってくるかという戦略は、阪南市単独よりも、他市町の資源と連携させた方が有意義ではないか。</li> <li>泉州で知名度があるものは、百舌鳥古墳の世界遺産、岸和田の城下町、貝塚等の歴史資源がかなり豊富な地域である。泉佐野市以南に来させるため、この泉州地域全体のアピールをした方がいいのではないか。その辺りが一つの大きな柱になるべきではないか。</li> <li>南紀も同じ状況。熊野古道が世界遺産に登録をされて、太地のくじらだとか、いろんな資源があり、連携していくことによって、観光客にとって、より魅力的な地域に見える。南紀も同じように、そのパンフレットを三重県と和歌山県で連携しながら進めている。もっと戦略的に、北へ行ってしまう観光客をいかに南に引っ張ってくれるかを図っていく点では、今後の大きな柱として出していただけると期待している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>私は南泉州観光ボランティア協会に所属し、阪南市では、まちおこし夢テラスとして、まちを案内している。貝塚、泉佐野、熊取、泉南、阪南それから岬、これが連携して案内している。紀州街道、浜街道だけではお客様がいないため、連携してやっている。23ページまでの達成状況や、観光産業の状況は、コロナ禍のため、日本全国共通のため、結果がでないのは仕方がない。コロナの完全収束を待つのではなく、これからどうすべきか積極的に考えて実施していくべき。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>久委員長の重複になるが、広域連携で負担金出しているの、例えば、泉州マリン等の集客数の多いイベントで海の魅力や山の魅力等の他市にもあって共通するもので、いかに集客するかが大事だと思う。イベントが開催されなかったら負担金は戻ってくるのか。次年度に繰り越されるのか。そのあたりを教えてください。</li> </ul>
まちの活力創造課	<ul style="list-style-type: none"> <li>負担金については、令和2年度の事業未実施分は、全額戻ってきていない。これは当該今年度実施できなかった事業の代替事業に充てていると説明を受けている。令和3年度以降の負担金については、各市町は既に定めのある負担割合に基づいて支払うことになるが、各市町の財政状況がコロナで圧迫されていることを踏まえ、KIX泉州ツーリズムビューローから我々市町の方に対しては、一定の配慮はいただいている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>KIX泉州ツーリズムビューローについては、観光局も関わっている。13市町がそれぞれでなく、泉州地域の点と点を線で結び、これだけ出しているからやってくれではなく、食、文化、歴史、自然等のテーマに沿ってそこでしかで連携して誘客促進を行っていく。昨年度より商品造成を行</li> </ul>

	<p>っている。具体的なコンテンツの商品化をエージェントや旅行会社で販売促進をしていくこと重点において活用していただけるようにサポートしていきたいと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、観光協会でも阪南市のことを知らない小規模の旅行会社を対象に資源を紹介するエージェントツアーを実施している。</li> <li>・地域の団体や修学旅行や地域の親睦団体の問い合わせが増えてきた。コロナ禍で遠くの外出ができないことから、マイクロツーリズムで近場の魅力を発見していく。それを踏まえ、市町村が売りたいものとエージェントが求めているもののミスマッチを解消するため、求めている者同士のニーズが合うようなマッチングの場も今年度実施していく。活用いただいて集客をしていただければと思っている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町が単独でするより一斉にする方が経費的および人件費的に効率がよく、エージェントと旅行会社も個別に呼ばれるよりも連携していくことで効果あるという話であった。スポットでは堺はサイクルスポットがあり、岬町はビーチバレーコートを持っている。そういうスポットで束ねたら、一つ一つの件ではなくて、何かこう泉州としてのテーマを出し合いながら、うまく連携していけるという指摘をいただいたので、本年度以降、考えていただきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我々の取り組みについて、ツーリズム営業部という部署があり、コロナ禍で観光施策は今のところは実績値が上がってない。KIX泉州ツーリズムビューローと同じ状態である。マイクロツーリズムで今のことを考えることも大事であるが、2024年ぐらいにならないとインバウンドが回復しないため、先を見通して時間がたくさんある内に考えることが大事ではないか。我々の会社は、加えてマイクロツーリズムと二本立てで考えている。今できる商品造成を練って、3年後に飛躍できるように考えていただけたらと思う。</li> <li>・あとコロナの影響でその交流人口が減っているのは当たり前だが、定住人口も減っているKPIとなっているので、我々が前向きに取り組んでいることを紹介させていただく。新しい取り組みで、沿線の企業へ就職していただくように、大阪中心部や関東方面へ流出を防ぎ、沿線企業の紹介および就職説明会も企業としても始めている。</li> <li>・他に今年新たに経産省と協力し、若者にそこの沿線企業に目を向けてもらうように仕掛けをしているので、阪南市と一緒にさせていただけたらと思っている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動手段として、南海電鉄とは連携をしっかりとっていただけて、より強めていただければと思う。</li> <li>・昔は、なんば発のから南紀行きの電車がかった。もう一度、このなんば発の南紀行きの電車を走らせていただき、阪南市に降りてもらえるようなルート設定を連携して考えていただければと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明の中で、元年度の実績が7万4,000人程度と伺ったが、ほとんどは外国人なのか。大阪府内または全国的にどれくらい来たか分析しているか。</li> </ul>
まちの活力創造課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答としては、どこから来た等の調査はせず、人数のカウントだけを実施。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の取り組みにつながるため、データが取れる工夫を考えていただきたい。</li> </ul>
まちの活力創造課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補足であるが、先ほどのKPI数値については、どこから来たかといった調査はではきないが、阪南市が主催、または関与している事業である。本来このDMO事業は、インバウンド向けの事業で進めていることから、主にターゲットは外国人であるが、今回の実績に関しては大阪府内、和歌山近隣からお越しのお客様が多数であると感じている。</li> <li>・来年度からの動きについては、令和2年度はインバウンド向けを対象としていたが、今年度から、泉州市町9市4町の各ゾーンを巡ることによって、各市町の特徴に基づいてツアー造成をする方向性を聞いている。本市についても先ほどの意見等々を踏まえながら積極的に関与していきたいと思っている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単独の市町プロモーションより他の市町と連携していくことについて、多くの委員の方から出ているが、私もその通りだと思う。関西エリアもKIX泉州ツーリズムビューローに役員を派遣しており、この活動評価ということになれば逆に利益相反的なところもあるが、本当に1年後、2年後だけの結果をとらえるのであって、完全に回復するのが2024年以降なので、中長期的な取り組みを続けていかないと、単発ものは、それで終わり。他市町に流れかねない。</li> <li>・他の市町にも同じような委員会があり、同じような課題を抱えている状況である。インバウンドが回復したときにどのように、国内のお客さんを集客して、いろいろ情報発信をしていかないといけない。本当にもう地道な積み重ねをしていくしかない。既にあるいろんな観光資源を掘り起こして、発信をしていく等。各市町の連携という観点からいうと、観光客からすると、行政の境目は意識しない。だから、他市町と連携をした上で、訪れてみたいと思わせる人</li> </ul>

	<p>の心を動かすストーリーを見出し、ツア-造成をしていただければと思う。各市町でもこのような場に参加しており、同じような話をさせていただいた次第である。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KIX泉州ツーリズムビューロー事業の評価をするのではなく、それが阪南市にとってどうだったのか。この474万円が本当に活かされているかどうかということの評価するのが、我々の役割だと思っている。</li> <li>・今後は、それぞれの市にとって効果があったのかどうかという観点で評価をさせていただければと思っている。評価は、KPIの指標は苦戦しているが、一定さまざまなPRしていただいて、効果があったと評価でよろしいか。</li> <li>・皆様の意見に関しては、事務局と私で整理をしていただいて、コメントとして付け加える。では全体の事業評価に関して意見はないか。</li> <li>・私の方から、説明の中で3割達成できたとあるが、KPIではかなり苦戦している印象である。5年間の実績を見るとある傾向に気づいた。スタートしたときは頑張っているが、2年目以降、頑張りが足りない印象がある。1年目は、頑張る気持ちと計画を策定した担当者が請け負っているが、2年3年目は異動等により、担当者が変わるため、継続が難しそうな印象である。ぜひとも2年目以降も継続して頑張っていただきたい。</li> <li>・それでは、案件2つ目、地方創生の主な取り組みについて、事務局から説明いただきたい。</li> </ul>
(2) 地方創生の主な取組について	
① 企業版ふるさと納税について〔資料3、参考資料1〕	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年3月に第2期総合戦略を策定し、その第1期総合戦略に基づきまして、現在実施している事業等について、3点報告させていただく。</li> <li>・1点目は、資料3。企業版ふるさと納税、国が認定した地方公共団体の地方創生のプロジェクトに対して、企業が寄付を行った場合には法人関係性が税制控除される制度である。本市においては、令和3年3月30日付けで、内閣府から企業ハックアップ構成いわゆるまちひとしごと創生寄付活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例であり、それを活用してもいいという地域再生計画の認定を受けている。認定された地域再生計画については、参考資料1を後程ご覧いただきたい。</li> <li>・資料3裏面。地域再生計画の概要を掲載している。令和3年3月に策定した第2期阪南市総合戦略に掲げる四つの基本目標を実現するために、地方創生の推進事業に取り組んでいる。具体的にどのようなものの寄付を求めているか。具体的には、スマートウェルネスシティの推進や海洋教育等の環境教育の推進、里海里山づくりの推進やスマートシティ等のテレワークの推進に取り組んでいる。テレワークに関する推進について、後程説明させていただく。企業版ふるさと納税の寄付額の、目標値は、2024年度までの累計で1,000万円を企業版ふるさと納税いただく。また本計画については、事業評価の効果検証を本委員会で行っていくので、来年度から事業の進捗について、また皆様に意見等いただきたい。</li> <li>・2点目は、第2期総合戦略の重点施策に掲げている移住定住の支援の取り組みとして、シティプロモーション推進課から説明させていただく。</li> </ul>
(2) 地方創生の主な取組について	
② 市役所地下の食堂跡地を活用した「(仮称)阪南テレワークステーション」の整備について〔資料4〕	
シティプロモーション推進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)阪南テレワークステーションの整備について、資料をご覧ください。テレワークステーションの整備を進めるに至った経緯については、社会的な背景として新型コロナウイルスの影響により令和2年3月時点と4月時点の比較として、全国のテレワーク実施者は13.2%から27.9%と2倍以上に増加している。さらに、コロナ収束後、テレワークを行いたいという割合が61.7%となっていることからコロナによりテレワークが急速に普及し定着しつつある状況である。</li> <li>・本市が抱える背景については、4点ほどを記載している。1点目、阪南市外へ特に大阪市に通勤する人が多い。2点目、本年3月に策定した第2期総合戦略において、テレワークスペースなどのサードプレイスづくりに向けた支援についても明記している。3点目、本年7月には、大阪観光局様と阪南市観光協会によるワーケーションの取り組みがスタートするなど、市内でテレワークを後押しする動きがある。4つ目、昨年8月に営業が終了になった市役所地下食堂跡地の活用方策の検討が必要となっている。</li> <li>・2ページ目。これらの背景を踏まえて、国の地方創設テレワーク交付金を活用し、市役所地下の食堂跡地に、(仮称)阪南テレワークステーションを整備することとなった。本取り組みにより、首都圏や大阪都市圏の企業が阪南市に拠点を構えることで阪南市に働くこと、暮らしことの魅力を創出できることに加え、都市圏からの企業進出、滞在移住の創出を目指す。総事業費および令和6年度末におけるKPIについては、2ページの中段、記載のとおり。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備場所として、市役所地下の食堂跡地とするメリットについて説明する。立地面といたしまして、市役所は本市の中心市街地で特急停車駅から徒歩数分に位置して交通アクセスが良い。また、図書館やコンビニが近いことから、調べ物や軽食などにも便利である。</li> <li>・公共施設であるメリットについては、空きスペースの有効活用と市の新たな歳入確保に繋がる点や職員や市民、事業者の交流連携の場として市役所の利用価値が高まるという点等が上げられる。</li> <li>・3ページ目。今後のスケジュールについては、令和4年4月に本施設オープンする予定。それまでに貴重な調達行為業務等についても記載しているのでご参考にご覧ください。現在整備に向けて進めている最中であり、現状として説明できる内容としては以上である。</li> </ul>
(2) 地方創生の主な取組について	
③新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について 令和2年度分〔資料5-1、資料5-2〕 令和3年度分〔資料6〕	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料5-1。阪南市におけるコロナ対策を通じた地方創生取り組みについて説明する。新型コロナウイルスの感染症拡大の防止及び感染拡大の影響を受けている域経済や住民生活の支援を通じて、地方創生を図るため、国の交付金を活用し、令和2年度においては、資料5-2のとおり、約7億9,500万で、89事業を実施させていただいている。主な事業を簡単にまとめた資料5-1について説明させていただく。</li> <li>・まず、市民生活への支援、事業活動の支援ということで、阪南市独自のプレミアムつきの商品券の発行、また本市においては、3漁港という三つの漁港があり、この地産地消の推進や漁業振興を図るということで、市内の3漁港の活動に対する支援で、牡蠣小屋やオンラインによる親子教室の開催等支援信をしている。また、新しい生活様式への対応ということで、GIGAスクール構想と、いわゆる、市内の小中学校児童生徒に、1人1台タブレットを配布し、オンラインでの学習ができるように整備を進めている。</li> <li>・また、行政手続きのオンライン化の導入で、マイナンバーカードを活用し、住民票の写し交付請求等の行える行政手続きのオンライン申請ができるサービスの導入をさせていただいている。その他、子育て向けの支援や新生児への応援給付金、子育て世代商品券の配布や妊婦の応援事業等の様々な事業実施をさせていただいている。</li> <li>・資料5-2。事業について37番が欠番になっているので全部で89事業となる。89事業のうち、一部は今年度に事業繰り越しをして行っているので、引き続き事業に取り組んでいる。</li> <li>・資料6。令和2年度の事業について、令和3年度に取り組んでいる国の方向けを活用して実施している。なお、これは6月30日時点の資料である。</li> <li>・主な事業については、2ページ目、15番は地方創生テレワーク推進事業。これは、阪南市のテレワークステーションを整備するもので国から事業費の半分を交付金していただく。</li> <li>・このほかにも23番の図書館バーアップ事業については、電子図書が導入するというもの。</li> <li>・3ページ。29番については、阪南市プレミアム商品券。昨年度、実施したが、第2弾ということで、今年度、事業を実施している。</li> <li>・4ページ。合計2億5,275万8,000円という形で、6月30日時点で約2億5,275万8,000円の事業を実施している。</li> <li>・こちらは13番が欠番のため、事業数は35事業である。以降も国の交付金等で、現在の事業を追加して実施している。関係者と調整の上、事業の追加をしていくと地方創生の取り組みについて、引き続き実施をしていただきたい。説明は以上。</li> </ul>
(3) 意見交換	
委員長	・ただいまの説明内容については全体的に意見交換させていただきたい。
副委員長	・テレワークステーションの整備や運営は交付金で対応可能であるが、交付金が切れた後、運営については市の単費で行うことになる。有料化にしていくことやランニングコストについても想定していると思う。定住を目的としていることから、利用者数の増加やテレワークステーションの利用率、社会増減という指標等で評価をし、運営していくことがベースになってくると思う。先ほど市長からの話であったように、赤字を出さないよう財政再建の計画を策定したため、収入増を図ることや支出を減らしていく多方面から考えていくべきだと思う。5年10年先どのようにされるのか考えを伺いたい。
シティプロモーション推進課	・ハード整備については資料を2ページ。プロモーション費用も含めて4,800万程度、全体事業費にかかる。ランニングコストについては、当初より有料で利用料を徴収しようと考えている。ただ事

	業の目的が、都市圏からの移住定住や企業の進出というところを目的としているので、できるだけ安価な形で、あくまでもラングに見合った実費負担で運営しようと思っている。そのような利用料の設定で想定している。
副委員長	・外部評価の委員会に意見を求める際、交付金全体の事業の妥当性や、KPIをどのように設定したかを伝えておかないと、このネットワーク事業だけで定住と企業が誘致されてきたというところが、先ほどのビューローと同じく、算段が難しい指標化をされると評価がしづらい。そのあたりも含めて事業推進していただきたい。
委員長	<p>・資料4のご説明にもいただいた。これがそのトリガーになって展開していくかというところが戦略をしっかりと整理をしていただいて、それが達成できて、ネットワークの利用者だけではなくて、どういう波及効果が出てきているのかも追っかけていただきたい。つなぐためにはどういう手段が必要なのかということも併せて考えていただきたい。</p> <p>・ちなみに全国的にこういう補助金がある前からワークステーションを作っているところもあるが、空き家を活用してワークステーションを使われる手法もある。そうすると、空き家の改修費もこの交付金が使え。さらにその運営は、民間の方や市民団体とかNPOにゆだねていくと市が活発になっていく。このような戦略を取っているところもある。今後、第2号・第3号は、外で展開していくことで、空き家の対策にも繋がっていく等、他に広げていける戦略を補強していただければ嬉しい。</p> <p>・ネットワークで人を集めている地域が全国的にどこになっているのか。例えば、南紀白浜、徳島神山町、島根県の海士町。実はすべて空港のそば。空港から車で1時間のところに、こういうネットワークの企業が立地している。開空のすぐそばですから、ねらいようによつていけるはず。なぜここに企業はプライベートを持ってくるのか。ていうことのことを考えていただくと。阪南市は、こういけるのか、いけないって判断をできると思うので、このあたり全国的な展開の中で、この阪南市がどう続くかを考えていただければ嬉しいと思う。</p> <p>・さらに、もう1点私の方から申し上げたいのは、一つは、経済的に困っている方に対しての経済危機支援、もう一方は、これを契機にイノベーションを起こす次の時代に合わせて転換していくためのスタートアップ。この二つのタイプがあるが。阪南市の交付金は前者が多いなという気がしました。もっと後者ですよね。この次の時代に向かって、スタートを切る時の応援から、もっともってあってもよかったのかというように思っている。これからこのコトの交付金をどう使わかっていう中で言うと、もっとこういうきっかけに次のステップに行けるようなイノベーションのスタートアップの交付金の使い方をして欲しいなというように期待している。</p> <p>・ちなみに、今日の資料のこのGIGAスクール構想の早期実現推進事業、これは大学でも同じ。去年からリモート授業やオンデマンドの数字を増やしていきました。今回の授業の内容はタブレットを買うこと。つまり小中学校の先生方が、新しい教え方ができるツツな転換というのを同時にしておかないと、単にそのタブレットを買いました。一時的なものとして終わるので、戦略付けをしているかによって、次のステップを大きく違ってくる。だからそういうイメージを見て欲しい。それによって大きく変えていかないといけない。行政手続きオンライン化サービスも下手をすると、今までの手続きサービスがオンラインに乗っかっていくだけにしかならない。単に利便性が向上するだけにしかなくなっていかない。これをきっかけにやっぱり行政手続きの多いイノベーションを起こして欲しい。そういうことを、こういうような場合、常にその戦略ぜひ考えて欲しいなというふうに思う。一時しのぎで使わなくて、次の10年・20年に生きる形で、使って欲しいと思う。いろいろコメントさせていただいた。他、いかがか。</p> <p>・担当課には、先ほどコメントを受けて、より効果的にお金が使えるようお願いをしたい。人々のお金なので、効果があろうとなかろうと使い捨てにならないよう、効果が出るように、億単位なので、それなりの効果を上げるようにしていただきたい。</p> <p>・それでは、本日の予定はすべて終了。その他何かあるか。</p>
(4) その他	
委員	・いろんな取り組みをされる中で、市が良くなっているという状況をその外へ発信してないと定住人口等に繋がっていかないと。実際、近隣の岬町は、今年12月から10分番組を毎月作成し、町の取り組みや魅力を番組とYouTubeにアップしていく。YouTubeは誰でも見られるが、番組は大阪北部へ特化して放送する取り組みをやろうとしている。岬町だけでなく、泉州地域一体となって、そして、PRしていければと話も出ているので、もし興味があれば、岬町と調整していただければと思っている。
委員長	・JCOMは全国展開をされているのが強みなので、そこを活用しながら考えていただければと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の地域の番組も、ドローカというアプリを使いながら、見られるようになっているので、お力を借りながら進めていただければと思っている。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動にご協力いただければと思う。交付金を一時の手立てでなく、しっかり考えていただきたい。交付金は次の事業が推進するような活用の仕方をしていただきたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の対応は3パターンだと思っている。</li> <li>1つ目は、今まで通りの仕事をやっていて困っているからお金のみ要求する人。</li> <li>2つ目は、業種転換をして、自分たちの力で次の展開を広げている人。</li> <li>3つ目は頑張りたいと思っているが、なかなか、一歩が出ず、助けを求めている人。</li> <li>この3点分けると、行政が応援して差し上げるのは、3つ目の人だと思っている。</li> <li>2つ目の人は自分たちで展開を考えているため、助ける必要はない。</li> <li>1つ目の人たちについては、従来のやり方を変えず困っているだけなので助ける必要はない。</li> <li>3つ目の人たちに財政支援をする代わりにイノベーションと一緒にやっていくという呼びかけをしてほしい。行政には誰に補助金を出すのかを見極めてやってほしいということも踏まえて、さっきのこのプランはすべて、このとおりに有意義でお金を使っていただきたい。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・余談。南海と河内長野市は非常に市と連携されて、市全体で街歩きウォーキングツアーをしたりとか、イベントされたりとか、10年ぐらい前から、市と連携された方がされている。</li> <li>・例えば、南海電鉄と市が連携してウォーキングイベントを行い、観光ボランティアと連携し、JCOMに広報周知を手伝っていただいたりする。ここにいるメンバーでも何かできることがあるのではないかな。私事ではあるが、市民の1人として、阪南市が良くなってほしい思いがある。よろしくお願ひしたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人との繋ぎをしていただくことも、市の大きな役割であるため、コーディネーターとして誰と誰を繋いでいけば、こういう展開ができるのかも考えていただきたい。</li> <li>・ちなみに初タイプなことを言えば、プレミアム商品券は何度かやってきたが、一時的なもので困った状態へまた戻る。だからそういうことを何度も繰り返しても私はあまり意味がないかと思っている。次のステップをどうするのかしっかりと考えていただきたい</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心まちづくりでお伺いしたい。地域や市の職員で防災士の資格をどれだけの人が持っているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災士の資格を市職員の何人が持っているかということは、私たちの部署では把握ができていない。また、自主防災組織の方に防災士がいるかという質問であるが、これも同じく、部署は危機管理課となっているので、今この場で、何人ということでお答えができない。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他に、よろしいでしょうか。</li> <li>・事務局から連絡事項等があれば、</li> </ul>
6. 閉会	
未来創生部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めのビューローの件であるが、広域的に広くプロモーションできるということで、負担金を出している以上、その効果を十分発揮していきたいと考えている。</li> <li>・委員長が言うように、南の方へ人を呼び込むことは、我々も重要と考えており、阪南市でも工場見学やせんなん里海のワークショップやハイキングコース、また、牡蠣の養殖、わかめの種付けなど、体験観光としても頑張っていきたいと思っている。また、今後モバイルや、上田安子服飾専門学校と協定を結び、交流人口と関係人口を増やそうと考えている。</li> <li>・先ほど、情報発信のことでJ:COMからご提案いただいた。シティプロモーション推進課という部署が未来創生部にはある。はんなんTV というYouTubeチャンネルを、毎月第3火曜日、お昼の12時から生放送で情報発信を行っている。これもアカイブでずっと見られるので各情報も見ていただきたい。もっと広く皆さんに知っていただくような努力をしていきたいと考えている。</li> <li>・コアの交付金の活用として、定住移住人口の促進の事業に予算措置を行っている。</li> <li>・ふるさと納税について、400、500 という魅力的な商品があるので、是非とも、ふるさと納税に協力していただけたらありがたい。今年度は、今回の会議この1回のみとなり、来年度についてはまたご案内させていただく。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、1回であるが、話の中でかなり連携の話が出てきたので、お知り合いになった方々でつながっていただければと思う。</li> </ul>

-以上-